

受賞

- 近藤 梓(化学専攻助教)
有機合成化学協会日産化学工業研究企画賞
「新規光学活性イミノホスホラン化合物の設計開発と多機能性触媒分子としての利用」2015.2.19
- 芳井 朝美(化学専攻 学部4年)
サイエンス-インカレ奨励表彰
「大環状有機化合物を活用した有機電子材料分子の設計・合成」2015.3.1
- 眞木 晴季(化学専攻M1)、小野寺 恒信(化学専攻助教)、Rodrigo Sato(NIMS D3)、
武田 良彦(NIMS助教)、笠井 均(化学専攻准教授)、及川 英俊(化学専攻教授)
第5回(2015年春季)応用物理学会Poster Award
「ポリシアセチレンナノ結晶の薄膜化と非線形光学応答のサイズ依存性」2015.3.13
- 山下 琢磨(化学専攻M1)
第3回日本物理学会学生プレゼンテーション賞
「陽電子アルカリ原子錯束縛状態の高精度計算」2015.3.21
- 大家 寛(地球物理学専攻名誉教授)
2015年度 日本地球惑星科学連合フェロー
「宇宙空間プラズマ物理学、特に飛翔体観測や地上観測の推進と理論研究面からの顕著な貢献」2015.3.27
- 梅宮 茂伸(化学専攻D3)
日本化学会第95回春季年会(2015)学生講演賞
「酸素を用いるNef反応の開発と反応機構解析」2015.4.13
- 佐藤 宗太(化学専攻准教授)
平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞
「生体分子インターフェースの精密合成に関する研究」2015.4.15
- 横山 寿敏(物理学専攻助教)
JSPJ Most Cited Articles in 2014 from Vol. 82 (2013)
「Crossover between BCS Superconductor and Doped Mott Insulator of d-wave Pairing State in Two-Dimensional Hubbard Model」 Hisatoshi Yokoyama, Masao Ogata, Yukio Tanaka, Kenji Kobayashi, and Hiroki Tsuchiura, J. Phys. Soc. Jpn., Vol. 82, No. 1, p. 014707 (2013)2015.5
- Muhammad Shoufie Ukhtary(物理学専攻M2)、Eddwi Hesky Hasdeo(物理学専攻D2)、
Ahmad Ridwan Tresna Nugraha(物理学専攻助教)、齋藤 理一郎(物理学専攻教授)
Spotlights論文
「Fermi energy-dependence of electromagnetic wave absorption in graphene
Appl. Phys. Express 8 055102 (2015)2015.5
- 熊谷 翔平(化学専攻D3)
日本化学会第95回春季年会(2015) 学生講演賞
「干酸架橋ABX3ペロブスカイト型フレームワークA サイト置換による物性変化」2015.5.1
- 佐藤 貴哉(化学専攻D2)
日本化学会第95回春季年会(2015) 学生講演賞
「三重鎖形成に基づくRNA二重鎖配列選択的蛍光検出を目指したペプチド核酸プローブの開発」2015.5.1
- 横山 寿敏(物理学専攻助教)、田村 駿(物理学専攻D3)
JPSJ Papers of Editors' Choice
「Drude and Superconducting Weights and Mott Transitions in Variation Theory」 Shun Tamura and Hisatoshi Yokoyama J. Phys. Soc. Jpn. 84, 064707 (2015).
- Jose Trevison(物理学専攻M2)
INSIGHT論文
「Quantum energy teleportation across a three-spin Ising chain in a Gibbs state, J. Phys. A: Math. Theor. 48 175302 (2015)2015.6
- 奥津 賢一(化学専攻D1)
第31回化学反応討論会 ベストポスター賞
「Ion imaging study of photofragment ion from mass-selected Mg+Ar with a linear-type tandem reflectron」2015.6.4

- 大村 周(化学専攻D2)
第31回化学反応討論会 ベストポスター賞
「Electron dynamics in nonadiabatic transitions through an avoided crossing: Energy analysis of time-dependent molecular orbitals」2015.6.4
- 儀間 真也(化学専攻M2)
第26回万有仙台シンポジウム ベストポスター賞
「分子間でのメチレン基移動を伴うO-プロピルキルホルムアルドキシムの金触媒骨格転位反応」2015.6.6
- 薛 婧(化学専攻D3)
第26回万有仙台シンポジウム ベストポスター賞
「Hydrocarbon macrocycles for organic-light emitting devices」2015.6.6
- 梅宮 茂伸(化学専攻D3)
2015 Reaxys PhD Prize Finalist
「Pot Economy in the Synthesis of Prostaglandin A1 and E1 Methyl Esters」2015.6.10
- 吉田 将隆(化学専攻D1)
第18回理論化学討論会 優秀ポスター賞
「分子配向の最適化と回転波束からの時間分解X線回折像のシミュレーション」2015.6.11
- 江越 脩祐(化学専攻研究支援者)
RSC Molecular Biosystems賞
「植物毒素ニコチンナンの作用部位解明を目指した変異体植物の孔辺細胞 In vivoラマンイメージング」
2015.6.12
- 寺田 真浩(化学専攻教授)
Molecular Chirality Award 2015
「Development of Chiral Organocatalysts and its Application to Catalytic Asymmetric Synthesis」2015.6.13
- 大谷 真理(地学専攻M2)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「捕獲岩かんらん岩に記録された間隙流体の形状と組成について」2015.7.10
- 河野 尊臣(地学専攻M1)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「南鳥島の溶岩と形成過程」2015.7.10
- 中谷 貴之(地学専攻D3)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「前弧マントルにおけるかんらん岩の加水反応速度に関する実験的研究」2015.7.10
- 松本 恵子(地学専攻D2)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「噴煙や溶岩中への大気取り込みの指標としての磁鉄鉱結晶の酸化反応」2015.7.10
- 無盡 真弓(地学専攻D2)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「新燃岳2011年噴火噴出物中の石基ナノライトの鉱物学的性質」2015.7.10
- Penwitasari Septi(地球物理学専攻D2)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「Statistical Study of Concentric Gravity Wave in the Mesopause by using the IMAF/Visi Data」2015.7.10
- 伊藤 一成(地球物理学専攻M2)
日本地球惑星科学連合2015年 学生優秀発表賞
「金星GCMへの硫酸雲の導入」2015.7.10

授賞

優れた研究業績を上げた大学院生及び成績優秀な理学部生や留学生に以下の賞が授与されました。

- 「荻野博-和子奨学賞」2015.3.13
榎窪 成祥(化学科 学部3年)、杉林 敬大(化学科 学部3年)
- 「青葉理学振興会奨励賞」2015.3.13
阿部 信樹(数学科 学部3年)、和山 裕嗣(数学科 学部3年)、大藏 聖(物理学科 学部3年)、
鎌田 正明(物理学科 学部3年)、CHEN, Yao(宇宙地球物理学科天文学コース 学部3年)、
鐘田 有祐(宇宙地球物理学科地球物理学コース 学部3年)、小林 良(化学科 学部3年)、
中島 祐司(化学科 学部3年)、吉崎 昂(地球惑星物質科学科 学部3年)、新藤 一葉(生物科学科 学部3年)
- 「青葉理学振興会賞」2015.3.13
齋藤 洋介(化学専攻D3)、松下 ステファン悠(物理学専攻D3)、井上 海平(物理学専攻D3)、
男庭 一輝(化学専攻D3)、山崎 馨(化学専攻D3)
- 「黒田チ力賞」2015.3.13
薛 婧(化学専攻D3)、無盡 真弓(地学専攻D1)、椛田瑞恵(生命科学科D3)
- 「化学専攻賞」2015.3.25
梅宮 茂伸(化学専攻D3)、山崎 馨(化学専攻D3)
- 「川井数学奨励賞」2015.4.15
川村 悟史(数学科 学部4年)、竹内 秀(数学科 学部4年)、珍田 一馬(数学科 学部4年)
- 「数学最優秀学生賞」2015.4.15
三宅 庸仁(数学科 学部4年)

*職名・学年は受賞時のものになります。兼任含む。

編集 後記

広報・アウトリーチ支援室のスタッフは3月に陶山さん、7月に後藤さんが退職されました。長く携われたお二人が退職され、今年度より佐和、保手濱の新体制となりました。皆さんに多大なるご協力をいただきまして無事ニュースレター「Aoba Scientia No.23」を発刊することが出来ました。ありがとうございました。ジェットコースターのような毎日が過ぎていきます。ほっと一息つきたい時には窓から見える緑を味わい、キャンパス内では皆様に温かい声をかけていただき、理学部独特の心地良い空気を感じております。今後とも新生広報・アウトリーチ支援室を宜しくお願い致します！(広報・アウトリーチ支援室スタッフ 佐和)



東北大学大学院理学研究科・理学部
広報室・Aoba Scientia 編集委員会
〒980-8578 仙台市青葉区荒巻青葉6番3号
TEL: 022-795-6708
URL: <http://www.sci.tohoku.ac.jp/>



TOHOKU
UNIVERSITY

aoba SCIENTIA

No.23
2015.9

東北大学大学院理学研究科・理学部

ニュースレター



博士課程共同指導プログラムに関するマインツ大学との覚書の調印式 Georg Krausch 学長と里見進総長 (詳細は特集ページへ)

スピントロニクス 国際共同大学院プログラム設立

スピントロニクス国際共同大学院
プログラム長・理学研究科教授
平山 祥郎

国際共同大学院プログラムは研究中心大学である本学の特色・強みを活かしてグローバルな大学院教育を推進しようとするものです。特に、本学のアクティビティが世界的にも高く評価されているスピントロニクス分野においてこの国際共同大学院教育を行うのが、スピントロニクス国際共同大学院プログラム (GP-Spin: Graduate Program in Spintronics、ホームページ <http://gp-spin.tohoku.ac.jp/>) で、世界の第一線を走る本学のスピントロニクス分野が同じく世界の第一線を走る海外教育研究機関と平等な立場で国際共同大学院教育を実現していこうとするものです。この新しい取り組みは文部科学省にも高く評価され、平成26年度の概算要求として採択されました。これを受けて、学内にワーキンググループが設置され、平成26年9月の報告書提出を経て、スピントロニクス国際共同大学院プログラムが正式に発足しています。

スピントロニクス国際共同大学院プログラムでは、部局を越えて本学でスピントロニクス分野の研究教育を進めるグループが連携しています。理学研究科をはじめ工学研究科、金属材料研究所、電気通信研究所、WPI-AIMRから日本のスピントロニクス分野を代表する教員が参加し、図1にその

概略を示したように、欧米を中心としたこの分野を先導する教育研究機関と共同教育を実施する予定です。連携する主な研究機関として、アメリカのシカゴ大学、ドイツのマインツ大学、ミュンヘン工科大学、カイザースラウテルン工科大学、オランダのデルフト工科大学、フローニンゲン大学、オーストラリアのニューサウスウェールズ大学、中国の清華大学等を予定しています。特に、マインツ大学とはドイツ政府が進める国際共同教育の枠組みSpinNet (ドイツマインツ大学を中心に日本の東北大とアメリカのスタンフォード大が連携) で協力関係にあることもあり、博士課程学生の共同指導に向けた覚書を平成27年2月に締結しました。これは本学で最初のジョイント・スーパーバイズ・デグリーに関する大学間協定であり、里見進総長とマインツ大学の学長であるProf. Dr. Georg Krauschの間で調印されました (図2)。今後は同様の覚書を、ドイツを中心に他の大学にも拡張していく予定ですが、国により事情が異なる部分もありますから、覚書ありきではなく、実のある国際共同教育が多くの研究機関と進められるように取り組んでいく所存です。

スピントロニクス国際共同大学院プログラムでは、修士2年

から博士課程修了までの4年間の一貫教育を原則としています。基礎から応用までの多岐にわたる国際的なスピントロニクス分野の教育を実現するために、各専攻で通常履修する科目に加えて、スピントロニクスの基礎から応用を英語で講義するスピントロニクス基礎Ⅰ、Ⅱ、ノーベル賞受賞者も含むスピントロニクス関連の外国人講師によるセミナーを中心にしたスピントロニクス応用、国際会議発表やスクールなどの企画を中心としたスピントロニクス実践の科目を用意しています。さらに、スピントロニクス特別研修として海外教育研究機関でのインターンシップ研修を6か月以上行うことを必修としています。充実した海外インターンシップと、海外インターンシップ先の教員と本学の教員が連携して学位取得まで共同指導を行うことがスピントロニクス国際共同大学院プログラムの大きな特徴になります。博士課程修了時には、外国指導教員も含めたQualifying Examination (QE) を行い、研究能力のみならず、グローバルに活躍できる能力を審査する計画です。長期に海外インターンシップを予定しているスピントロニクス国際共同大学院プログラムでは、学生が経済的な心配をすることなく国際共同教育に専念できるように、博士課程リーディングプログラム同様の手厚い経済的サポートを履修生に提供しています。

スピントロニクス国際共同大学院プログラムでは平成27年4月に第一期生を受け入れました。学生数は徐々に拡充していく予定で、最終的には本学で20人、外国研究機関に所属し本学と共同教育を進める学生が10人の合計30人を考



図3.スピントロニクス国際共同大学院プログラム共同実験室の写真

えています。教育内容としては、スピントロニクスの古典から量子まで、数理から応用までの多様な分野をカバーします。さらに、最新の実験装置を備えた共同実験室 (図3) を平成26年度に新築した理学研究科の免震新棟 (理学合同C棟) に新設しました。スピントロニクス国際共同大学院プログラムでの国際共同教育を推進するにあたり必要になる最新鋭の装置 (現時点で設備されているものは、物理定数を低温から室温まで測定できるPPMS装置、低温ならびに室温で動作できる磁気力顕微鏡、液体ヘリウムフリーの超伝導磁石付希釈冷凍機) が共同実験に供されています。平成27年度には、「知のフォーラム」と連携することで国際セミナーなどの充実を図る計画も進められています。

国際共同大学院プログラムは本学が推進するスーパーグローバル大学 (SGU) 構想の中心的な役割を担うものです。スピントロニクス国際共同大学院プログラムは、今後シリーズで設立が計画されている国際共同大学院プログラムの一番バッテリーとして、その先導役をつとめます。データ科学、宇宙創成物理学、環境・地球科学など理学研究科が重要な役割を果たす国際共同大学院プログラムが順次設立されていく予定であり、これらの国際共同大学院プログラムとともに理学研究科、本学、さらには日本の大学院教育のグローバル化に貢献していく予定です。



図1.スピントロニクス国際共同大学院プログラム (GP-Spin) の概略 左上はGP-Spinのロゴ

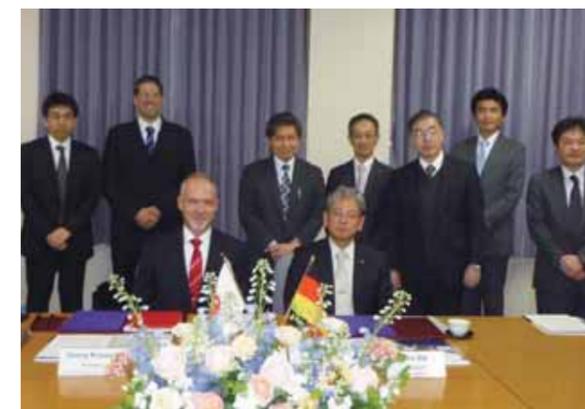


図2.博士課程共同指導プログラムに関するマインツ大学との覚書の調印式 (平成27年2月17日) 前列左からマインツ大学のGeorg Krausch学長と里見進総長 後列左から、国際交流課連携推進係 (併) 国際企画係 宮本係長、マインツ大学SpinNetコーディネータのF.Casper博士、GP-Spinの運営委員の一人である工学系研究科の安藤教授、副理事 (国際交流担当)・総長特別補佐 (国際交流担当)・学位プログラム推進機構副機構長山口教授、筆者、留学生課交換留学推進係 塚本専門職員、留学生課 我妻課長

天体理論研究室

<http://www.astr.tohoku.ac.jp/tap/>

天文学専攻 教授 大向 一行

今年度、発足3年目を迎えた理論宇宙物理学の研究グループです。構成員も徐々に増えて、現在ではスタッフ3名、研究員4名、大学院生4名の計11名となり、ようやく研究室らしい体制が整ってきました。それに伴い、セミナーなど研究関連行事だけでなく、花見やハイキングなどのイベントも充実してきています。

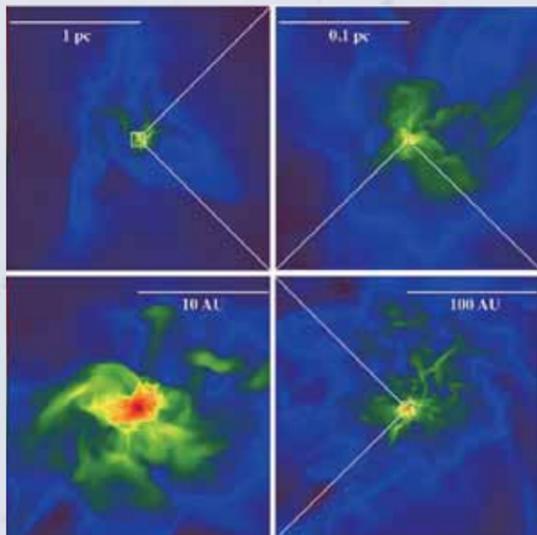
現在の研究テーマは主に宇宙初期の天体形成論と高エネルギー天体物理学の2つに大別することが出来ますが、研究室全体の方針としては、特定の天体に研究対象を限定せず、宇宙に生起する様々な天体現象を物理法則と理論計算、数値シミュレーションを用いて解明することを目指しています。したがって、常に新分野の開拓を視野に入れて取り組んでいきたいと考えています。

天体形成論とは、138億年前のビッグバンにより誕生した、ほぼ完全に一様・等方な高温プラズマ宇宙が、現在の星・惑星系、星団、銀河、巨大ブラックホール、銀河団、大規模構造といった多様な階層の天体から成り立つ宇宙にどのようにして進化したのかを考察する学問です。これらの天体の種となったのは、宇宙背景放射の温度揺らぎとして誕生後38万年後の宇宙に存在が確認されている、微小な密度の揺らぎです。この密度揺らぎが重力により成長して、最終的に星、銀河などの天体が誕生する過程を重力、輻射・化学過程を考慮した理論計算

により解明を進めています。特に我々の最近の研究により、宇宙最初の星が太陽の100倍程度の大質量なものであったことが分かってきました。また特殊な環境下ではこのような星は太陽の10万倍にも達する超大質量星となり、その後、一般相対論的な不安定性により重力崩壊してブラックホールとなることも分かってきました。このようなブラックホールはその後周囲のガスを吸い込んで成長し、銀河中心に存在する太陽の10億倍の質量をもつ超大質量ブラックホールの起源となったと考えられています。

高エネルギー天体物理学では、ブラックホールや中性子星などの高密度星の周囲における高エネルギー現象を考察します。このような環境では莫大なエネルギーが低密度なプラズマに解放されることで、プラズマの一部あるいは全体が相対論的高エネルギー状態に到達し、その結果多種多様な活動性を示しています。これはパルサー、超新星残骸、活動銀河核、ガンマ線バーストなどの天体において、電波・可視・X線・ガンマ線にわたる広い波長域で観測されています。最近の研究としては、回転するブラックホールが磁場を介して周辺プラズマにエネルギーを与えるメカニズムの解明に成功しました。また、近年観測され始めた高エネルギーニュートリノが、ブラックホール周辺プラズマで生成されている可能性も提唱しました。

若い学生や研究員の方たちと一緒に、今後もより多くの宇宙の謎を解き明かしてゆきたいと思っています。



原始銀河の中で超大質量星が生まれる様子



研究室メンバー

資源・環境地球化学分野

<http://epms.es.tohoku.ac.jp/nreg/intro.html>

地学専攻 教授 掛川 武 助教 古川 善博

「生命はいつどのようにして誕生し、地球と共にどのように進化したのだろうか？」この問いは科学が答えるべき重大な疑問ですが、人類の知識とこの答えとのギャップは極めて大きいのが現状です。このギャップを埋めるべく様々な分野を基盤として生命の起源解明への取り組みがなされていますが、私たちの分野では太古の地層に残された生命とその活動の痕跡を探るアプローチと、地質記録が残っていないほど古い時代の環境の模擬実験を行って、生命構成物質を作り出すというアプローチを組み合わせて研究を行っています。

例えば、グリーンランドには37-38億年前の地層があり、その中のある地層には「最古の生命の痕跡」として報告されているグラファイトが含まれています。しかし、この地域には生命とは関係のない炭素も同じグラファイトとして産出するため、一体どの炭素が生命の痕跡なのかについては論争がありました。私たちのグループでは地質調査、岩石の顕微鏡観察と微量元素などの化学分析、グラファイトの電子顕微鏡観察と安定同位体比分析などを組み合わせ、最古の生命の痕跡を特定する研究を行い生命誕生に関する疑問の「いつ」に対する答えに制約を与えようとしています。

38億年前の地層から生命の痕跡を見つけることは「いつ」の答えに制約を与えますが、「どのようにして」の答えにはなりません。38億年以前の地質記録は地球上に極めて少ないですが、それらの地質記録と惑星科学や地球化学に基づく地球形成史を総合すると、当時の地球上の普遍的環境や、局所的な環境、頻繁

に起こるイベントを描きだすことができます。このような知見に基づいて想定した環境やイベントを室内実験で再現し、生命を構成する有機物が生成するかどうかを検証しています。例えば、隕石の衝突を再現した実験では無機物からアミノ酸や核酸塩基が生成することがわかりました。また、ホウ酸が濃集する環境ではRNAを構成するリボースの安定性が選択的に向上することがわかってきました。さらに、38億年前の露頭の地質調査からは当時の地球にホウ酸が多量に存在したことも明らかになりつつあります。

生命の誕生後は地球と生命が影響し合いながら生物相や海洋、大気の組成が変わっていきました。私たちの研究室ではそのような証拠が残された地層を対象として地質調査と精密な試料分析を組み合わせることで当時の環境や生物相の変化も追いかけています。

初期地球環境や生命の起源に関しては、まだまだ分からないことだらけですが、その分だけ挑むべき大きな課題がたくさんあると捉えることもできます。このような課題解決にアプローチするために、資源・環境地球化学分野では元気な15人の学生たちと2人の教員で研究を進めています。



研究室メンバー（前列中央が掛川武教授、その左隣が古川善博助教）



南アフリカの鉱山にて地質調査

●合同C棟が完成しました



東北大学大学院理学研究科に新しい研究棟「合同C棟」が完成しました。平成23年の東日本大震災で被災し、大きな損傷を受けた化学棟と物理研究棟の研究室が新棟に入居しています。この新棟が完成したことを祝い、平成27年2月に竣工記念式典が行われました。竣工記念式典では、「東日本大震災で理学研究科も高層階で甚大な被害があり、教育研究機能に支障をきたしたが、教員や学生の努力で震災以前に勝るとも劣らない成果があった。これまでも世界をリードする成果をあげられているが、新しい環境でますますの成果をあげ、新しい歴史を踏み出して欲しい」と里見進総長からご挨拶を頂きました。

新棟は、地上8階建て、延べ床面積9,520m²、建築面積1,390m²、

曲線を取り入れた斬新な弓形状の外観デザインを有し、免震構造を採用し、72時間電力供給が可能な非常用電源設備を取り入れ、屋上階にはIK技研から寄贈された望遠鏡を有しています。2階には、国際シンポジウムが開催できる青葉サイエンスホールと多目的室のほか、カフェ、ロビーラウンジ、セミナースペースなどの交流スペースやコンビニエンスストアが配置されています。新棟は、平成27年12月開業予定の仙台市営地下鉄東西線青葉山駅に面したメインストリートでつながる本研究科の“顔”となります。開放的な雰囲気の中で学生や教職員が集い、様々な交流が行われる空間としてこの新棟が利用されることを願っています。



○青葉サイエンスホールC201(定員117名、前面、右面にスクリーンあり)



○多目的室N204(定員54名、前面にスクリーンあり)



○ミーティングルームS205(定員8名)



○ミーティングコーナーS201~S204(ガラス黒板)



○ロビーラウンジ(デジタルサイネージは広報・アウトリーチ支援室管理)



○カフェ"Espace Ouvert"(営業時間:11:00~20:00)



○コンビニエンスストア

青葉サイエンスホール前 デジタルサイネージについて

(注)なお、同フロア多目的室前に設置されている縦型ディスプレイは教務・学生支援用になります。

1. 掲載について

(1) 内容

以下に該当するものを掲載します。

- A) 理学研究科・理学部が主催または共催するイベント
- B) 青葉サイエンスホール及び多目的室で行われるイベント
- C) 理学研究科キャンパス内で開催される高校生や一般の方も参加可能なイベント

(2) 依頼

掲載希望日の2週間前までに、広報・アウトリーチ支援室宛にメールまたは電話にて、
・掲載希望日時 ・掲載内容 をご連絡ください。

(3) 掲載可能コンテンツ

- 静止画(jpeg、jpg、gif、png、bmp) / 動画(avi、mpeg、mpg、wmv、asf) / PowerPoint (.ppt、pps) / Flash(.swf) など
- *静止画:画像サイズは1920px×1080px、色空間はRGB。
- *動画:全体の尺は、10分程度。
- *静止画、動画とも300MBまで。

2. その他

内容等によっては掲載をお断りする場合がございます。あらかじめご了承ください。

【お申し込み・お問い合わせ先】

理学研究科 教育研究支援部
広報・アウトリーチ支援室

(内線)6708 E-mail:koho-outreach@mail.sci.tohoku.ac.jp

新任教員紹介 NEW FACE

岩淵 将士 (いわぶち まさし)

【宮城県出身】

●理学研究科 教育研究支援部
キャンパスライフ支援室 助手

研究分野: 学生相談関係。特に青年期におけるコミュニケーションの取り方と学校適応の関連について。

経歴: 宮城県泉山高等学校卒業、東北大学教育学部卒業、東北大学大学院教育学研究科博士課程前期修了(教育学修士)

趣味: 料理、お菓子(作るのも食べるのも)



キャンパスライフ支援室で相談員をしています。岩淵です。学部生から博士課程後期の学生まで、幅広く相談を受け付けています。また、場合によっては保護者や教職員からの相談も可能です。忙しい生活の中でほっと一息つける時間を過ごしていただけるよう、努力していきたいと思っています。

千田 雅隆 (ちだ まさたか)

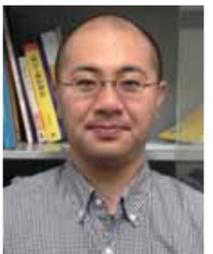
【1980年 宮城県出身】

●理学研究科数学専攻 助教

研究分野: 整数論、特に保型形式・保型表現に付随するL関数の特殊値の研究

経歴: 宮城県気仙沼高等学校卒業、東北大学理学部卒業、東北大学大学院理学研究科にて博士号取得、東北大学大学院理学研究科21世紀COE助教、日本学術振興会特別研究員、京都大学白眉センター特定助教

趣味: テニス、スキー



今年度4月からリーディング大学院の助教として採用されました千田です。仙台には平成20年3月以来、7年ぶりに戻ってきたことになります。専門は整数論で、特にゼータ関数やL関数と呼ばれる解析的な対象と代数的サイクルやSelmer群といった代数的な対象の間にある関係について興味を持って研究を行っています。東北大にいる様々な方とできるだけ触れ合って、多くのことを学びたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。

本多 正平 (ほんだ しょうへい)

【1981年 大阪府出身】

●理学研究科数学専攻 准教授

研究分野: リーマン幾何学

経歴: 大阪府立摂津高等学校卒業、大阪市立大学理学部卒業、京都大学理学研究科 修了、九州大学数理学研究科 助教

趣味: バレーボール



リーマン多様体の収束・崩壊理論という、特異点のある図形を調べる分野の一つを研究しています。東北大での多くの出会いと研究をとても楽しみにしております。

松村 慎一 (まつむら しんいち)

【1985年 千葉県出身】

●理学研究科数学専攻 准教授

研究分野: 複素幾何学

経歴: 早稲田大学高等学院卒業、早稲田大学理工学部数理科卒業、東京大学大学院数理学研究科にて博士号取得、鹿児島大学理工学研究科 助教



4月1日付で鹿児島大学から着任いたしました。私の専門は複素幾何学で、特に代数多様体と呼ばれる多項式の零点で定義される図形をその図形の曲がり具合や微分方程式の視点から研究しています。慣れない環境に不安もありますが、新しい出会いや交流に期待も持っています。気軽に声をかけて頂ければ幸いです。こちらからお話をさせて頂くこともあるかと思いますが、その際はどうぞよろしくお願いたします。